

インタビュー1

地域商工業振興プロジェクト

どのような取り組みをされるのですか

学生たちが主体となって、南知多エリアのマップづくりを行います。

師崎、豊浜、美浜の3地区のマップづくりを予定しており、今年度は、師崎のマップづくりを進めています。

今年の7月に師崎商工会青年部の方々と会合をもった際に、マップづくりを提案したことがきっかけです。

現在、師崎商工会青年部や商店街の方々と連携を取りながら、学生たちが取材を始めています。

地元の人たちが名物と思うもの、学生たちの視点で取材して掘り起こしたものなどこれまでにないマップをつくって、師崎の素晴らしさを発信していきたいと思います。

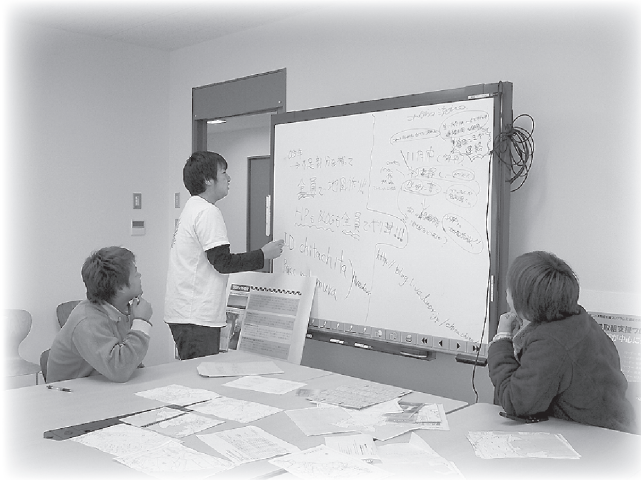
学生たちに学んでほしいこと

学生たちが学外に出て、社会性を身につけて欲しい。

今回のマップづくりを行って行く上で、調査するにあたって、先方に電話でアポイントをとって進めていくというお膳立てそのものが、社会勉強につながっています。

学校の近くに下宿している学生たちは、学校と下宿の往復だけになってしまいがちですが、地域に出ることで、いろいろな人と触れていく中で、人間的に成長していてもらいたい。

現実には、学外の地域活動をおこなった学生たちの就職はほとんど拍子に決まっていく傾向が見られます。



学生たちがブログで日々活動内容を情報発信

<http://blog.livedoor.jp/chitachita/>

※ブログとは、ウェブログ (web-log) の略で、一般的に時系列で並べられたユーザの記事とそれに関するコメントが定期的に更新されるサイトのこと。



経済学部 中村 智彦 助教授

プロフィール

1964年生まれ。中小企業論、地域経済論を専門分野とし、フィールドでの調査や研究に精力的。趣味は、旅行、読書、街歩き。現在、NHK教育テレビ「21世紀ビジネス塾」のコメントーターとして出演。
<http://www.hpmix.com/home/monomuse/>

エピソードはありますか

今年の円頓寺商店街(名古屋市の)の七夕まつりの際に、空き店舗を5日間お借りして学生たちが駄菓子屋を開業しました。

商店街、商工会や地元企業若手経営者の方々の協力を得て実現にこぎつけたものです。学生たちにとって起業体験ということで、資金集めから、仕入れ、場所の確保、広報活動など机上では学べない貴重な体験となりました。

その際に、NHK名古屋局の夕方のニュースで中継されたこともあり、テレビを見た本学OBの方々が続々と訪ねて来られました。起業体験を通して、学生とOBの交流も生まれました。

地域への貢献について

各商工会と連携して、南知多エリアのマップづくりを進めていきますが、学生が主体となって活動することで、地域における宣伝プロモーション的な貢献ができると考えています。

大学と地域が連携して行っていく、マスコミに取り上げられたり、観光客が作成したマップをみて、南知多エリアに足を運ばれたりするなど、いわゆる広告代理店に近いかも知れません。行政がマップ作成などする際は、どうしても公平性を考慮し、すべてを網羅する形になってしまうが、利用する側に立って学生たちの視点から今までにない形のマップを作成することで、地域の活性化に寄与していきたいと思っています。

インタビュアー：現代GPコーディネーター 名倉 弘二